

色内通り、堺町通りの商店

堺町通りと色内通りには 19 世紀後半から 20 世紀初頭の商家、倉庫、銀行が数多く保存されています。かつて銀行や倉庫の中心地であったこれらの地区は現在ではショッピングや観光の目玉となっています。

小樽には出荷に適した深い港がありますが、山がちな地形のため建築に適した平地がほとんどありません。拡大する港の需要を満たすために海岸沿いを埋め立てて新しい土地を造成しました。1889 年に埋立地に境町、色内、北浜、南浜という新しい地区ができ、この街の経済の中心地となりました。当時、堺町通りはまさにウォーターフロント沿いにあり、商人は荷の受け渡しに便利な通り沿いに店舗や倉庫を建てました。19 世紀末までに小樽の経済は活況を呈し、堺町通りは商業の中心地でした。

色内通り周辺には約 25 の銀行や商社が開業し、市の銀行街になりました。20 世紀初めには、小樽は北海道の経済の中心地でした。しかし、20 世紀半ば頃には北海道東海岸の他の港が東京へのより便利な航路を提供したため小樽の経済は衰退しました。銀行や大型店は札幌に移転し、小樽の建物は空き家となりました。

1970 年代後半、小樽の歴史ある下町を再興しようと保存運動が起こりました。次第にこの地区は復活し、旧倉庫で事業がオープンし始めました。1983 年、北一硝子が大きな木村倉庫を小売店とレストランとして改修して訪問客を呼び込みました。多くの企業が歴史的建造物に移り、魅力的な商店街を作りました。かつての銀行のいくつかは現在、博物館や画廊として一般公開されています。かつては空き家だったこれらの建物の歴史的魅力が都市の経済復興に大きな役割を果たしました。